

令和元年度普及活動外部評価結果報告書

1 実施日時

令和2年2月10日（月）午前10時30分から正午まで

2 評価委員会の構成

区分	人数
外部有識者	1人
消費者	1人
農業者	1人
その他（農業関係団体職員）	1人
合計	4人

3 普及活動課題の評価できる点

今年度の普及活動外部評価は、秩父農林振興センターが取り組んだ普及活動「ゼロから特産品に！「横瀬の紅茶」の取組～紅茶づくりを核にした地域活性化～」について評価を行った。

普及活動に対する主な意見は次のとおりであった。

- (1) 茶の生産者の高齢化、担い手の減少という地域の課題を捉え、町と連携し、「地域おこし協力隊」の活用により新規就農者を確保していることは評価できる。
- (2) 遊休化した茶園を再生し、茶葉の摘み取り体験など収益性の高い体験農業の受入れを行う「モデルほ場」として整備したことも、評価できる取組である。
- (3) いままで未利用であった時期の茶芽を用いて、地域活性化のために紅茶生産にゼロから取り組んだことは大いに評価できる。
- (4) 生産された紅茶のPRに地域ぐるみで力を注ぐとともに、ソフトクリームやクッキー等の加工品が開発されたことで、「横瀬の紅茶」はブランドとして地域おこしの核となっていることは評価できる。

4 普及活動課題の改善すべき点

今後の普及活動に当たって、改善点が提言された。

- (1) リピーターを確保していくため、紅茶の味を追求していただきたい。
- (2) 茶芽の収穫時期で製造を分けた紅茶を作るなど、いくつかの種類を製造すると良いと考える。
- (3) 紅茶やクッキー等のパッケージについては、デザイン等を工夫するとより良くなると思われる。また、パッケージにSNS等のURLを記載し、興味を持った方が調べられるようにすると良いと考える。

(4) 今後の紅茶PRの場として、旅館やホテル等に働きかけると良いと考える。

おもてなしスペースにおいて提供するウェルカムドリンクや、売店でのお土産としての利用を提案してはいかがか。

5 普及活動課題への助言

今後の普及活動に当たって、以下のとおり助言がなされた。

- ・普及指導においては長い目で指導に当たることが重要であると考え、当該地域も継続して指導に当たっていただきたい。